

## 全校集会校長講話(2月14日)

校長 鈴木 健史

「感情的な涙を流す」ことは、他の動物にはない、人間だけの神秘的なものです。どうせ流すなら、「悔(くや)し涙」や「悲しみの涙」よりも、「嬉(うれ)し涙」や「感動の涙」の方がいいような感じがします。震災や戦争等の不幸な出来事で流す「悲しみの涙」はできるだけ避けたい気持ちでいっぱいです。

今年オリンピックイヤーです。今年の夏季オリンピックは、フランス・パリで7月26日(金)から8月11日(日)までの日程で開催されます。オリパラ等の競技で、日本人が、劇的な勝利を収める場面を見ると、感情が揺さぶられて、とても感動します。それこそ、平野歩夢さんや永田務さんのように卒業生や村上出身の選手なら、自然と「感動の涙」が溢れます。今年も多くの日本選手が活躍してくれるものと期待しています。

日本人として世界の第一線で頑張っているスポーツ選手といえば、二刀流で有名な大谷翔平選手です。彼はその見事な活躍ぶりから、もはや人間ではなく、宇宙人や伝説上の動物ユニコーンとも揶揄(やゆ)される程の人気と実力を備えた選手です。確かに、身長192cm、体重95kgの体格で日本人離れはしていますが、かつて、これだけ世界中から認められ、応援された日本人がいたのでしょうか？

インターネットで検索してみると、大谷翔平選手がファンから愛される5つの要因という記事があり、1つが「ぶれない」、2つ目が「人に恵まれる」、3つ目が「自分で進化できる」、4つ目が「如才(じょさい)ない(気が利いていて抜かりがない)」、5つ目が「野球が好き」だそうです。自分の進化のためにひたむきに頑張り、全国の小学校にグローブをプレゼントするなどの野球愛とサービス精神に溢れ、人のための配慮ができる性格となれば、もはや、世界中に彼を応援しない人はいないのではないかと思われる勢いです。今春からは、ロサンジェルス・ドジャースと10年7億ドル(約1015億円)でプロスポーツ史上最高額での契約が成立して移籍しました。なぜ、アメリカの大リーグはこれだけの高額年俸を出せるのかというと、ファンの数も多く、1試合で1億円以上の放映料や広告料、入場料、グッズ販売料が得られることに加え、年間140試合以上と収益金が集まりやすいことが理由にあげられるそうです。選手個人やその競技に対するスポンサーも集まりやすくなり、CM契約料、スポンサー料、賞金も連動して高くなるのだそうです。つまり、**「人気」に裏支えされた高額年収**ということだそうです。

昔から日本はアメリカの10年後を追いかけているなどと言われ、加えて、欧米人に対する劣等感も少しあることもあり、日本人は、世界では今一歩活躍できないと言われてきたように思います。しかし、アメリカの大リーグで、あまり英語も話せない大谷選手が、正々堂々の日本人的な真面目で努力する、謙虚(けんきょ)で多くを語らない東北人気質のまま、真っ向から勝負して、世界を揺るがす活躍をするに至っています。

中学生の皆さんを応援する私は、是非、彼らに続けと声を大にして言いたい。「近頃の若者は高望みもせず、自分で決めつけた身の丈に応じた生き方を望むと言われる。少くも無理したっていいじゃないか？どの分野でもいい、できるかもしれないと信じて、誰も踏み入ったことのない領域に進むのが若者の特権ではないのか？ただし、挑戦と無謀は違う。無謀はダメだ。大谷選手のように、用意周到に準備(夢と計画、実力等を兼ね備えて)をしてから進め。」

日本語で「旦那(だんな)」という言葉があります。諸説ありますが、もともと「布施(ふせ)をすること、布施をする人」を意味する仏教用語で、サンスクリット語の「dana(ダーナ)」の音訳とされています。danaには「与える」という意味があり、英語の「donation(ドネーション/寄付)」「donor(ドナー/臓器提供者)」も同じような起源を持つといわれていて、英語のスポンサーという言葉にも通じているようです。

「頑張っている人」は応援されます。できれば、ここにいる全員が応援される人になってほしいと思います。そして、「頑張る」ことの価値を理解する、応援できる人にもなってもらえたらなあと思います。「頑張る人」と「応援する人」が未来を創ると思うからです。

## 学校評価 生徒アンケートから

	項目	7月	12月
1	各教科の授業が分かる(平均値)	92%	91%
2	各教科の勉強が好き(平均値)	78%	78%
3	家庭で、自分で計画を立てて学習(ベース学習)をしている	69%	66%
4	家で1時間以上学習している	69%	69%
5	授業などの学習の場面でタブレットを活用できたか	90%	86%
6	学活や休み時間など生活の場面でタブレットを活用できたか	77%	73%
7	縦割りの活動に、積極的に活動できたか	90%	88%
8	手帳の活用が家庭学習の習慣化に役立ったと感じるか	58%	44%
9	将来の夢や目標を持っている	70%	68%
10	社会のルールやマナーを守っているか	97%	95%
11	自分に良いところはあるか	75%	80%
12	学校の先生は、あなたの良いところを認めている	87%	87%
13	学校は安心して生活できる場所になっている	83%	86%
14	毎日、朝食を食べている	91%	93%
15	家庭での平日のメディア使用が2時間以内である	42%	42%
16	午後11時までには就寝する	56%	53%
17	自分専用の携帯電話、スマートフォンを持っている	68%	76%
18	寝るときに、携帯電話やスマートフォンを手元に置かない	50%	49%
19	メディア利用について、保護者との時間制限のルールがある	38%	39%

生徒アンケートを7月と比較すると、項目1「授業が分かる」は1%の減、項目2「教科の勉強が好き」は変化はありませんでした。また、昨年度の12月と比較すると、項目1が3%の減、項目2が2%の減となりました。7月のアンケートと同様に主要5教科がやや低く、技能教科がやや高い傾向です。学習が進むにつれて分からないところも増えていきます。今後も授業改善に努め、一人一人に応じた授業づくり、「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わえる授業づくりに努めていきます。

2学期以降も手帳を利用して、終学活で家庭学習の計画を立案し、翌日の朝学活で担任が学習時間や就寝時間などの記入内容の点検を行ってきました。しかし、7月と比較すると項目3「家庭で、自分で計画を立てて学習(ベース学習)をしている」が3%の減、昨年度比較では5%の減、項目8「手帳の活用が家庭学習の習慣化に役立ったと感じるか」が14%の減、昨年度比較では19%の減となりました。手帳を活用している層と活用していない層の2極化が進んでいます。予定を立てることについて煩雑さや面倒くささを感じる生徒に対する手立てが十分ではなかったことが原因であると思われます。来年度に向けて手帳に変わるツールも検討しながら、生徒が見通しを立てて学習に取り組む習慣をつけられるような手立てを考えていきます。御家庭でも「何時から何時まで学習するか」を聞き、励ましをお願いします。

また、タブレットの使用については項目6「学活や休み時間など生活の場面でタブレットを活用できたか」、項目5「授業などの学習の場面でタブレットを活用できたか」ともに7月比較で4%減となりました。昨年度比較でもそれぞれ6%、15%の減となりました。学年が下がる毎にポイントも下がる傾向にあります。ソフトやアプリの使い方や何ができるのかを生徒とともに活用しながら実感させ、普段使いのための取り組みを進めていきます。

項目12「先生は、あなたの良いところを認めている」は7月比較で変化無し、昨年度比較で3%増、項目13「学校は安心して生活できる」は7月比較で3%増、増減なしとなりました。昨年度に引き続き一人一人に寄り添った支援を学校全体で取り組んでいます。10数%の、現状に不満や不安を抱いている生徒を取りこぼすことのないよう丁寧な支援を今後も続けていきます。

項目15「家庭での平日のメディア使用が2時間以内である」は7月比較では増減無しでしたが、昨年度比較で2%の増、項目16「午後11時までには就寝する」は7月比較で3%の減、昨年度比較で2%の増でした。項目17「自分専用の携帯電話、スマートフォンを持っている」は確実な増加傾向にあります。

GIGAスクール構想でも謳われているとおり、これからの社会を生きる子どもたちにはICT機器はマストアイテムです。しかし、同時に長時間の利用に伴う健康への配慮も必要とされています。メディア利用時間の増加と就寝時間の減少は学力等にも影響があることは周知の通りです。タブレットに限らず、ICT機器の使い方について、御家庭でもお子さんとよく話し合うことが大切です。御協力よろしく申し上げます。

## 学校評価 保護者アンケートから

	項目	7月	12月
1	村上第一中学校は、魅力があり信頼できる学校であると感じる。	87%	92%
2	教職員は、生徒の学力を伸ばすために丁寧に指導していると感じる。	78%	83%
3	教職員は、生徒に寄り添い、悩みや心配事に親身に対応している。	82%	82%
4	お子さんは、学校生活を通して成長している。	91%	93%
5	お子さんは、自分の学級での生活を楽しんでいる。	87%	85%
6	お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いてきていると感じる。	51%	54%
7	お子さんは、十分に睡眠をとり、規則正しい生活ができています。	65%	71%
8	お子さんは、メディア・コントロールができています。	40%	40%

今回の回答率は71.8%で、前回7月より3.0%の増でした。御多用の中、御回答いただき感謝申し上げます。

項目5以外につきましては、前回より肯定的な回答の割合が増加またはほぼ同数の評価でした。特に、項目1、4におきまして、肯定的な割合が90%を超え、ありがたい評価をいただきました。双翼祭での全校総おどり、麗華祭でのMDSライブや合唱コンクールなどを筆頭に、全校生徒で様々なイベントを創り上げ、みんなで楽しむ姿を見て評価していただいたものと考えます。ありがとうございました。

減少した項目5につきましては、双翼祭や麗華祭の行事を通して、子どもたちが学級の団結力を深めてはいるものの、全体的に学年での取組が多く、保護者の皆様にそれぞれの学級の良さや特徴が伝わりにくかったことが予想されます。この結果を真摯に受け止め、学年だより等で学年はもとより学級の様子もお伝えしていけたらと考えております。

項目2、6につきましては、前回より肯定的な回答の割合が、3～5%増加しました。昨年度に引き続き、手帳の活用、ベース学習、終学活後のベースタイム（家庭学習の計画立案と学習に取り組む時間）の取組に加え、今年度から導入している年6回の「単元テスト」により、家庭学習の習慣化が徐々に表れてきているものと考えます。また、ベース学習やスタプロ、テスト後のワークなど未提出の生徒に対してや未来塾（3年生受験対策）など、昼休みや放課後の時間を使って職員が学習をサポートする体制を各学年、徹底して行っています。また定期テスト直前の補充学習や個別学習なども随時行っていることも効果が表れたものと考えます。今後も、子どもたちの「基礎基本の定着」「家庭学習の習慣化」を目指して、工夫して対応してまいります。御家庭でも引き続き、温かい励ましをお願いします。

他の項目につきましても、来年度に向けて手だてを改良しながら、より一層丁寧に対応していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

なお、学年別の数値や自由記述については、テトルやホームページでお知らせいたします。そちらもぜひ御覧ください。

## 1年間の活動を振り返り次年度へつなぐ 生徒総会・三送会

2月21日（水）、今年度の生徒会活動を総括する第2回生徒総会が行われました。今年度の生徒会活動や部活動を総括し、説明をする生徒会本部や委員長、部長の態度がとても素晴らしかったです。このリーダーの立派な姿から、最後まで私語もなく静粛な雰囲気の中で生徒総会が進み、今年度の活動を振り返るとともに、来年度への提言をしっかりと確認することができました。

今年度の生徒会スローガン『「つなぐ」 感謝 協力 積極性』を実現するために、充実した活動が数多く展開されたのは、リーダーとフォロワーの力が一体になったからだだと思います。この良き伝統は、新しい生徒会本部や委員長、部長をはじめ、1・2年生が必ず引き継いでくれるでしょう。

また、生徒総会に引き続き、三送会（3年生を送る会）が行われました。この三送会は、生徒会がお世話になった3年生に感謝の気持ちを伝えたいとの強い気持ちから、新生徒会本部や専門委員長を中心に、それぞれ趣向を凝らした催しを行いました。最後は、全校で記念写真を撮影しました。1・2年生の成長と3年生の心が温まるとても和やかな三送会となりました。



## 令和6年度完全下校時刻の変更について

村上市立中学校部活動の地域移行推進計画を踏まえ、学校での部活動の時間を段階的に減らし、地域等の活動の時間に移していくこととします。そのため、来年度の完全下校時刻を以下の通り変更します。

	令和5年度	令和6年度
4月1日～31日 / Ⅲ期テスト～3月31日	17:00	通年
5月1日～Ⅲ期テスト	17:30	17:10

## 令和6年度入学式について

新型コロナウイルス感染症について、令和5年5月から5類感染症に位置付けられたことにより、令和5年度卒業式同様、これまでどおり感染防止対策を十分にとった上で開催することとしました。御来賓の皆様の人  
数制限等はありません。

## 3月の主な予定

※卒業式後、授業や下校時間が大幅に変わります。来週配付の3月予定表を御確認ください。

1	金	同窓会入会式（3年生、3限）	13	水	単元テスト
4	月	卒業式予行練習（2、3限）	15	金	給食最終日
5	火	第54回 卒業証書授与式	18	月	リーダー研修会（PM）※19（火）同様
6	水	専門委員会	22	金	終業式 離任式 11:10～

